

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	見学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	施設・病院等
担当教員	石橋 康信	実務経験と その関連資格	作業療法士として病院・施設で勤務し、身体障害者領域・精神障害者領域 で各疾患に対して作業療法を実践。新人教育、実習学生の指導に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
約1週間の見学期間を実習現場となる施設・病院などで過ごし、見学や記録をする中で作業療法士の役割や対象者への関 り方を学ぶ。終了後の発表を通じて文書・口頭で伝える力を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
実習指導者からの学生評価、実習・実習前後OSCE、実習課題(レポート・デイリーなど)、実習報告会で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
図解 作業療法技術ガイド—根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて [第4版] (文光堂) その他、全ての教科書を参考にする。						
《授業外における学習方法》						
■見学実習前■:見学実習オリエンテーションと実習前準備を行う。実習前準備では、感染対策・車椅子操作・見学の仕方・記録の仕方、 コミュニケーションのとり方・礼節について、記録のとり方・個人情報の取り扱い、ITリテラシーについてを学習する。■実習期間中■:「事前 学習 (30分):実習予定の確認・計画」「事後学習 (30分):記録・課題提出の準備」が基本となる。■見学実習後■:学内での実習報告 会、実習担当教員からのフィードバックなどを行う。						
《履修に当たっての留意点》						
現場での経験が今後の自分のモチベーション向上となるよう、主体的に取り組みましょう。発表用のスライド作成のためのパ ソコン・プリンター操作などは必ず自宅で行い、個人情報の管理に注意すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療 法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラル ある振る舞いや取り組みができる。		教科書	事前学習 (30分) 実習 前準備、出された課題 など 事後学習 (30分) 実習 ご復習・記録	
	各コマに おける 授業予定	実習(見学5日間)				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療 法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラル ある振る舞いや取り組みができる。		教科書	事前学習 (30分) 実習 に対する予定 事後学習 (30分) 記 録・課題提出の準備	
	各コマに おける 授業予定	実習(見学5日間)				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療 法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラル ある振る舞いや取り組みができる。		教科書	事前学習 (30分) 実習 に対する予定 事後学習 (30分) 記 録・課題提出の準備	
	各コマに おける 授業予定	実習(見学5日間)				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療 法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラル ある振る舞いや取り組みができる。		教科書	事前学習 (30分) 実習 に対する予定 事後学習 (30分) 記 録・課題提出の準備	
	各コマに おける 授業予定	実習(見学5日間)				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療 法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラル ある振る舞いや取り組みができる。		教科書	事前学習 (30分) 実習 に対する予定 事後学習 (30分) 記 録・課題提出の準備	
	各コマに おける 授業予定	実習(見学5日間)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	①作業療法の実施状況を観察・記録できる。②リハビリテーションの中で作業療法士の役割が理解できる。③作業療法士になる学生として礼節・言動などモラルある振る舞いや取り組みができる。	教科書	事前学習 (30分) 実習に対する予定 事後学習 (30分) 記録・課題提出の準備
		各コマにおける授業予定	実習(見学5日間)		